

慶応三年六月二十四日より慶応三年六月廿七日まで

P8310694right

贈らる、江連(加藤)より残品絹紗羽おり地贈らる、小品(懐中しる粉*)一折を酬う、石野(□□)返書

へ団扇五

贈り酬はる、小川(達)より頼み用文通有し、小品(懐中汁粉)を贈らる、団扇三を酬う、番町より長児をして告

別にさし越、鯉節一折持来、夕餐を勧む、入本五郎同断来り、就枕後にて申□□帰りし旨也

廿五日未 晴

伊藤(幸)へ馬売払世話の謝として肴料三方遣す、朝比奈(甲)近日出勤し報告状来る、稲田(嘉来り)面す

関本より暑見舞小品贈り越す、出 殿口奥坊へ持役賀補銀を立志へ渡す、明日出立に付、

壱岐守殿

御登城故御宅へ出、御返無し、柳亭京師帰着、一尾魚一鮑□□に□□数柄爛壘猪口(粗品也)など贈り越す、伊豆倉より転賀品(鯉節一折)差遣す、溝口(伊勢)より家来壱人出席(明日四時)の義、

達し来る、藤山(陽)

告別に来る、礫姑来る、蒸菓子壱折持来泊宿也、出入町人猶六家より古味酩七升残置

P8310694 left

の儀申出る、川勝(江蔵)より七子結(一反)残贈り来る、快翁方よりどぜう(どじょう)を贈らる

柳亭来り礫姑と

共に酒飯を喫す、入本山口(駿)、塚原(但)に尋問せらる一杯を勧む、旧侍定次郎小品持来不面

廿六日申 晴漸々薄陰夕小雨 暖度八十八度(三十一℃)

(出立川崎金川)藤山父子旧侍定次郎並出入町人共猶名□□見送来る、第七時半出立一時過川崎

午休、途

中保三並小野(友)(垂米利加より帰着)等に出会、四時半過国、駛着、江連が弥一島田(半)(本日出張)

多吉、佐次

藤五房等追々来り面す、嶋半は不面して帰り

廿七日酉 晴夕前雲

(藤沢小田原)第五時前□□駛出立、途中伊藤伯母一行を見受、第十時過藤沢午休、本第八時過

小田原着

領主より先払足輕兩人出す、町奉行名刺を本陣より出す、本陣より梅□□一器を賀謝銀を遣す

*1: 懐中汁粉、携帯でき、熱湯を入れかきまぜると汁粉になる。

()内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。